(日刊)月曜及祭日之翌日休刊 明治四十四年七月二十五日(火曜日) 第七百三十八號 (一)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙一枚金三錢▲一ヶ月前金三十錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲壹ヶ年…一ヶ月十五錢
廣告料 五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲…特別廣告…
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
發行兼編輯人 高木久太郎
印刷人 松久静一
發行所 京城西小門通 京城新報社
電話六六三番
仁川支局 仁川宮町三丁目 電話二二一番
東京支局 東京市京橋區南鍋町…

基督教會と本願寺(三)

晴鶴生投

出題目の演題につきて善意に解釋せる感想は日はく準備なき講話の價値の皆無なるは勿論なりと雖時しも微雨着なりしが夜色亦暗く聽衆甚少なりしが然も講師は又見了法を說けどの古諺により急に話題を改めたるならんと吾人は寥々たる寺院が微雨と人數とによりて講話を二三にする程不熱心なるべしとは信ずる事能はずされど若し果して然りとせば茲に曾て南條文雄師より聞きたる一話を挿入ずる必要を感ずるなり昔僧風潭叡山に天臺三大部の講義を開講し毎日四里の道程を往復したりしが三ヶ月の後聽衆大に減じさしもの大講堂遂に風潭一人を殘すに至れり其の師乃ち休講の已むなきを宣したりしが風潭多數の友を伴ひ來るべきを約し翌日伏見に於て各種の土人形を購ひ來りて講堂の四方に排列し師の講ける札間にあひ乃ち曰はく耳を有せざる聽衆たとひ講堂に溢るとも土人形と何どか擇ばんや耳を有するの風潭茲に在り幸に聽講を得んと師大に感じ風潭唯一人の爲に熱心に講演を繼續せりと予は本願寺の僧侶が此の一小話につきて再讀三思せん事を望む

講話をして有効ならしめ且つ多數の熱誠なる信者を得る秘訣は初より聽者の多寡を打算せんよりは寧ろ熱心に少數の信者を迎ふるによしとす此の見地に於て雨の夜風の夕は誠に得易からざる難物陶汰の好機會に非ずや是の故に平素よりも更に熱心に講演すべき筈なるに隨意に演題をすり換へ間に合せの話をなして折角集り來れる風潭の徒をして失望せしめ乖離せしめ再び寺門に入らざらしむ斯の如くしたとひ千百年を經とも信者らしき信者は遂に得る事能はざるべし嗚呼心を弘誓の佛地に立て情を難思の法界に流すべき僧侶の身を以て母國に在りては財政紊亂の爲に法庭の審判を受くる者さへあり半島に於ては殖民政策の法衣を纏ひながら屍[illegible]を聞く我佛教の[illegible]んや吾人は半島今日の國民が全く高尚なる精神的食糧を與ふもの一に宗教家至誠の人なきに由るものと斷言す然りと雖京城の地敎會猶多く寺院亦尠からず皋目皆暮酷の世の中面も氣概あり學識ある暗中の明珠無きを保すべからず大方の識者幸に示敎を吝む事無くば啻に吾人一人の慶幸のみに非る也

●隨意(二)

小松夢涯

(三)

「遠慮」なる高き價によつて得たる「人の和」は、まだしも、無遠慮にして而も自ら得られたる人の和にして始めて眞の和ではないか、君、僕の呼び來てはやがて吾々の愉快を減じる主なる原因ではあるまいか、人間はエラスチツクのものである、オツプレツシヨンを苦痛と考へてゐる、從つてそのオツプレツシヨンの除かれん事を常に望んでをるのである、此のエラスチシチーあるが爲めに人は成功もし、亦失敗をもするのである、斯くて人間は先天的に平人との權利の均等を主張する樣に出來て居る、無遠慮に接した爲めに愉快を感ずると云ふ事もかういふ風に客觀的に見れば、長上との懸隔が形式上瞬間的に除かれたるを感ずる爲めに、謂たさるゝ所の卑しき、然して自然なる虛褒心の滿足に基く所の愉快であるかの如くに思はれて、從つて頗るイヤな氣がするが、然し翻つてあの無遠慮が單に、レツドテープのヨークを脫し得たるが爲めに、偶々天眞に歸し得て生じたる無遠慮にして、却つて其處に長上との眞の人格的交際の目的が遂げられたるを見て覺ゆる愉快を思ふ時、自分は心から感謝の念を禁ずる事ができない

(四)の上

「昨日ぞ今日の昔なる」世の中の進歩は駸々乎として止まる處を知らない、凡ての事が、どしどしと過去の記憶に繰り込まれてしまふ、うして世の中はますます忙しくなつて來る、往來を步くにしても、段々抵抗物が多くなつて來る、試みに交通機關を見てもうらである、昔は歩行するにも徒歩より外に方法もなく荷物を運ぶのにも人間が擔ぐか、動物の背を借りるより外には方法がなかつたんだ、………で始めて馬車が出來たのは千五百六十八年にエリザベス女王の馬車が出來たのが抑々の始まりだと云ふ事だ、其の後ロンドンで始めて貨馬車の出來たのがそれから半世紀ばかり後れて千六百二十何年かであつた、尤も古代の文明國には二頭馬車が用ひられたやうに書かれてゐる、例へば、埃及の王とヨセフの話や、ヤコブの家族を埃及に逃れさせた話や、其外シリヤ人がベーラチに貢物として馬車を贈つたといふ話もある



千代子

妙子の兄

翌日になると總ては疑問は氷解した、一晩宿つて歸るべき答の千代子さん所から電話で幸ひ今日は日曜だかられ前の(千代子さんの)れ雜作をかけたれ禮を盡くしかたがた伺ひするから待つて居る樣にと云ひ來された、柑や父は床の軸を探幽の[illegible]古銅の鉢に花活に朝顏を挿した置物には一錢一笠露花を浴びて流を下る筏師の木彫なるを置いた。青銅の香爐には沈香を埋けた、香煙軒を繞つて物悉く香しきを覺ゆる、

妙子は元より千代子さんは襷掛けで椽や玄關にカラ拭きを掛けて居る。

起きた斗りの僕は夫れを橫目に湯殿に這入ると湯が沸いて居て未だ蓋がしてある父も未だらしいので顏だけ洗つて引つ返さうとすると千代子さんが其處に立つて居る、

「れ早う御座います」

「やれ早う、恐れ入りますなれ客樣をれ使ひ申して」

「イエ、却つて御遠慮がなくて結構で御座います」と華やかな笑を見せる。

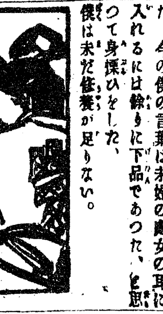
「ど御座いますと何日までも唯使ひますよハヽヽ、」と笑つた僕の聲は少々顫ねて居た如に記臆する。

顏を眞赤にした千代子さんは足の爪先を見詰めて、

「エ、私の如なもので宜しければ何時までも」有るか無きかの聲である。

僕の意志は[illegible]國に返つた、

「左樣なら[illegible]迎します……」と迄言つて僕は僕の不躾なる言語を耻ぢぬ譯には行かなかつた、今の僕の言葉は未婚の處女の耳に入れるには餘りに下品であつた、と思つて身慄ひをした、僕は未だ修養が足りない。



召使れ初

第百十一回

黒法師

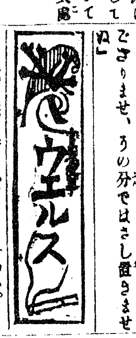
「澤野さまのれ詞とも覺えませぬ、他の事とは違ひ、御病氣を仰せ遊ばすを御諫言申し上げる詞ないではござりませぬか」とれ峯は嘲けるやうにいふ。

「御病氣と仰せ遊ばす、それが眞實とは思はれぬわの」

「案外れ詞それは何故でござります」

「れ顏色でよう分る、れ目の色が物をいふ、此方假にも富貴姫樣れ乳の人でござるぞ、僞りをれ敷ね申して、それで役目が立つかのう」と澤野は口を歪めて云ひつゝ「後々、爲めに聞いて置く」

「慮外ながら樣々は御本腹、左樣な卑しいれ心は持たせられませぬ、れ顏色はどうあらうとも、御病氣とあるに間違はござりませぬ、れ年寄と思ひ遠慮すれば付け上り不躾御口上今一言仰せござりませ、うの分ではさし置きませぬ」



れ峯は儼然容を改めぬ、富貴姫はろの手を放れて、倒るゝ如く背後へ退りたまふを、侍女ども御介抱、何れも油斷なく身構ねして、此場の樣子に心を配りぬ。

「れはゝゝゝ」と澤野は堪ね切れぬ如く笑ひ「こりや甚い御挨拶ござりまするな、私惡氣あつて申し上げたではないを、此事什麽とた取りござりましたな、御所望とあらば、言か二言でも申し上げるに仔細ござりませぬも、云ふたところで詮はない處角は姫君御氣分を直させて、御一所にれ幣の御遊、御氣分れ變らせられすば、牛腑でも厭ひませぬ、一時でも大事でござりませぬ、れ姉妹御間に結ばせた垣を、れ取り除けあらせるやう、願ふ外ござりませぬ。ま思ふても見させられ、將來政姫樣御當家御相續あらせたりや、富貴姫樣は何れかへ御緣組を遊ばすた身、すれば萬事れ世話にもならせられて……」

「ねゝ、ねゝ」とれ峯は地團太を踏むやうに「二度と御口上ござりまするな、二度と仰せござりまするな、左樣なれ詞聞く耳は持ちませぬ」

「はて、私の云ふことが又れ氣に觸つたかの、さらばこれでれ詑をする、平に宥させ、いやも年を老ると、御遠慮[illegible]」

「あなた樣れ口からは何事も聞きませぬ、樣々れ待ちかね、これでれ別れ致します」

「まだ云やるの、和御寮樣々御詑とあるがれ分りにならぬかや喃」

「私、樣々乳母ござります、政姫樣お付きではござりませぬ」

「ぢやが政姫樣は御惣領、御惣領仰せの事背きはならぬ、假にも奥に勤むる身が、うればどの事御存じないでござるかの」

澤野は嵩にかゝつていふ、政姫は勝ち誇りたるやうに立たせて、絶わず相生と目を見合せつゝ、面白げに打笑みれはしき。



申し上げることを忘れて、思ふことをつい云ふて退ける」

「これでれ別れ申し上げます、私は樣々れ身れ幸福を願ふ外に什麽の思ひもござりませぬ」

「これは早や、和御寮からその樣の事云ふてはならぬ、假へ富貴姫樣如何樣に仰せ遊ばしても、將來御身の爲を思へは爲るまじき忍耐あらせて、姉姫樣へはそれの、れ付合ひなさせられるやう、た心付け申上げねばなりませぬ、これがれ乳の人れ役、れ乳の外の御家公は要りがこれぢや喃、御合點が參つたか」

この爭ひの側には、れ察地上に平伏しありき。

京城新報

通貨の膨脹と移入超過（二）

官民の注意を要す

一國の富度を測らむと欲せば、先づ其生産力に觀れば必ずや正鵠を誤まらざるなり、半島の如き農業は唯天然自然に頼りて稔熟を待ち、森林は徒らに濫伐に委し、江流かゝる灌漑治水の法を講ずる莫く、勞働者ありと雖も勤勉之に伴はざるの狀態を長く持續し來りし所以のもの、畢竟壓制政治のために人民は勤勉の結果を强奪せらるべきを恐怖し、寧ろ懶いて失はむよりも遊むで失ふの優れるに如かずてふ自棄的觀念に驅られ、資本は自から減耗し生産隨つて衰頽せしものならずんばあらず。今や我善政の下に諸制度は革新せられ各々改良の緒に就かむとし、且又半島民に於ても外界の刺激により稍々生産に心を傾くるに至りしものあるも、現在尚貿易上移出の依然として振はざるに反して、移入の激增しつゝあるに徵せば、幾百年の永き間に陶冶せられし半島民の惰性と、因襲の久しきに亘りし半島民の惡弊とは、未だ容易に拔除する能はざるものあるを思はしめ、吾人轉た慨嘆に堪へざるなり。

うも、資本が生産の經濟的條件として最も必須なるものに置かれつゝあるは吾人の喋々を要せず、而かも生産分業にして充分に細密ならしむるには、必らず巨額の資本を要すべく、生産愈々複雜となつて資本益々必要となるは是亦論なし、然るに併合後恩賜金となり工事費となり、或は内地資本家の放資となりて、半島に散布せられし通貨の甚だ巨額に上りたるも、之をして有益なる方面に利用し、事業の擴張改良に勸むせる者尠なく、安然として通貨の膨脹を喜び漫りに消費して得々たる者多かりし結果は、終に移入の激增を示すに至らしむ、之れ要するに半島民の腦裡に資本觀念の缺乏せる爲ならむのみ。政府にして、交通の便を開き港灣を修築し、金融機關を設けて、只管生産の振興を策せるも、通貨の增加をして事業資金に働かしめずんば、蓋し到底理想の効績を擧げ得べしとは信ぜられざるなり。

想ふに、現在の貿易入超狀態をして長く推移せしめむか、半島に散布せられし通貨は漸を以て母國に逆流し、復收すべからざる經濟上の恐慌を呈するに至らむ、遂に通貨の膨脹は一場の夢と過ぎ、昨の喜びに引代へて各々空嚢を抱いて不景氣を嗟嘆する悲運を見るべきは、之れ必至の理なりとす、豈警しむる所なくして可ならむや。而かも如此にして通貨全く半島金庫の底を拂ふに至れば、朝鮮兌換券の如き勢ひ不換紙幣となるを免がれずして、一般經濟界に及ぼすの影響轉た寒心に堪へざるものあるに想倒せざる可からず。今の時に於て豫め之れに備ふる所なくむば、半島財界の前途は實に心細き限りなしとせざらむや、吾人の深憂實に茲に存す。借問す政府當局は斯かる經濟上の危機に際會し之を如何にして救はむとする乎、吾人の見る所を以てすれば、此危機の來るに先だちて現狀を展開するにあり、即ち膨脹しつゝあり膨脹せむとする通貨をして、資本に化せしめ入超によつて流出する通貨は總て貿易の出超額を以て決濟せしむるの政策を樹立するの外なしと信ず、噫、一時的人爲的なる數膨脹の現象を以て半島經濟開發の能事了れりと速斷するあらば、开は官者の事なり、苟くも半島經濟の順進を希圖するものは現時の通貨膨脹に關し多大の注意を拂はざるべからず。願り策を立て力を盡して膨脹せる通貨の資本化に努めざる可からず。若しそれ空々寂々小康を偸安する所なくむば、或は恐る總督政治の美も期年ならずして其弊を來さむ、思ふて茲に至れば移入超過の事決して輕々に看過すべきに非ず、官民の識者須らく吾人の言に聽き、通貨の膨脹より生ずる經濟上未來の憂害を未萠に防がむことに盡力する可なれ（完）

東京電報

▲露領漁權問題　露國政府領海擴張に伴ひ我漁民の蒙る損害に關しては目下露都に於て本野大使と露國政府との間に交渉中なり

▲大演習下檢分　奥參謀總長は本年秋季大演習下檢分の爲め久留米に着せり

▲八月の陸軍異動　來る八月陸軍部内に於ける官役停限年齡滿了に付豫備役に編入せらるべきは大久保大將鮫島中將中村中將等なるが聞く所に依れば鮫島第十四師團長の後任は梅澤近衛步兵第二旅團長中將に昇任し其後を襲ひ步兵第五十三聯隊長福田大佐は少將に昇任し梅澤少將の後を襲ひ近衛步兵第二旅團長となり今村步兵第二十三旅團長は同氏の後任となり近衛步兵第四聯隊長高橋步兵大佐は少將に昇任の上轉補せらるべしと

▲御祭粢料御下賜　天皇、皇后兩陛下には德壽宮嚴妃薨去に付祭粢料として三千圓下賜せられたり

▲伯露移民の許可　本年內に約八百名の伯露行移民を許可する事に我外務省は決定したり

▲東鐵の總會　東京鐵道會社は今廿四日總會を開き會社解散に關し付議する筈なり

▲秦宮御避暑　秦宮聰子內親王殿下には桂御養育掛長以下侍女數名を隨へさせられ箱根宮の下なる御用邸に御避暑あらせられたり

▲東宮妃御避暑　皇太子妃殿下には二十二日午前六時二十分御出門各供奉員を隨へさせられ上野停車場御着有栖川閑院山階北白川朝香竹田各宮殿下御使其他の奉迎を受けさせられ七時四十分御發車栃木縣下に向け御出發相成りたるが十一時三十分日光御安着田母澤御用邸に御避暑遊ばれたり

▲濟生會の經過　桂首相曰く濟生會の寄附金は豫定額二千萬圓を超過したるを以て地方の分は一先づ二十五日を以て締切り金額の決定を待つて直に總裁正副會長理事を任命し事業に着手したりしと

▲吉田少佐拘引說の無根　獨逸滯在中の吉田少佐拘引されたりとの風說に對し事實無根との公電ありたり

雜報

●總督東上延期　寺內總督は本月末頃當地出發東上の豫定なりしが都合に依り來月初旬上京の筈にて或ひは王世子殿下と同行せらるゝことになるやも知れずと云ふ

●官有財產管理規則　勅令第二百號朝鮮官有財產管理規則は二十四日の朝鮮總督府官報を以て公布されたり全文十七條より成れるが重なる條項を摘記すれば左の如し

一、本令に於て官有財產と稱するは國有の不動產船舶及其の附屬物を謂ふ

一、朝鮮總督所轄の官有財產は特別の規定ある場合を除くの外本令に依り朝鮮總督之を管理處分す

一、公用中の官有財產は賣拂讓與又は交換することを得す

前項の官有財產は公用を妨けざる場合に限り其の使用を許可することを得

一、官有財產は無料にて貸付し又は使用を許可することを得す但し公用又は公利を目的とせさる公共の利益と爲るへき事業の爲にする場合は此の限りにあらす

一、官有財產貸付期間中公用に供するの必要を生したるときは貸付の契約を解除し之を返還せしむへし

一、本令は公布の日（七月十八日）より之を施行す

●官有財產取扱手續　別項の如く官有財產管理規程發表されたるが更に取扱手續は近々訓令を以て發布さるべく目下當局に於て立案中なりと

●道長官會議決議實行　本月初旬各道長官會議に於て決定したる事項に就ては法規の改廢を要せずして處理し得べきものは直ちに實行し豫分の改善を要するものは各部より夫々案を具して成るべく速に其手續を運ぶ筈にて目下手續中なるが其重なるものは職員の增加新事業の計畫等なりと云ふ

●王世子着京　王世子殿下は二十三日午前八時軍艦春日にて無事釜山上陸同停車場にて少憩の上釜山迄出迎の昌德宮御使関長官德壽宮御使金贊侍李完用高永喜朴齊純李容植李秉武の各貴族嚴俊源並に東京より隨員と共に同九時臨時貴賓列車にて釜山發車途中迄出迎の李熹公殿下及尹德榮も同乘豫定の如く午後六時四十分南大門驛に着せらる停車場には李堈公殿下寺內總督代理、大久保大將、山縣政務總監、松永師團長、倉富、木內、荒井、小松の各部長官、國分檢事長、明石司令官、宇佐川、市原兩總裁、古城民長、山形中佐、久芳事務官、永谷警視、中野亥角の兩警務官其他朝鮮貴族及び官民二百餘名の出迎あり殿下は陸軍中尉の制服を着け一々出迎者に對し舉手の禮ありて用意の馬車に召され古谷御用掛、金武官、陪乘鳳路太平町を經て大漢門より德壽宮に入らせられたり驛より大漢門に至る間は學校生徒一般出迎者を以て堵を爲せり

●王世子總督訪問　王世子殿下は二十四日午前十一時四十分小宮次官及古谷御用掛以下の隨員を隨へさせられ馬車にて寺內總督を官邸に訪問し嚴妃の御逝去の挨拶を述べ尙は御生母病中に於ける配慮を謝されたり寺內總督は稍々御慰藉申上げたるに殿下は此は天命と諦める旨語られたる由斯くて約三十分間にして退出されたり

●王世子昌德宮訪問　王世子殿下は二十四日寺內總督御訪問後直に昌德宮に成らせられ李王兩妃兩殿下に御對顏あらせられたり

●燒香式舉行　來る八月五日を以て德壽宮殯殿に於て王公貴族並に嚴妃の御親族參會の上莊嚴なる燒香式を舉行する事に決し目下準備中なり

●王世子の參拜　王世子殿下は二十四日午後五時殯殿に安置せる嚴妃の靈柩に參拜せらる

●葬儀執行期未定　嚴妃の葬儀執行期に就ては葬地撰定及同工事其の他の關係上到底王世子殿下滯在中には不能なるべく依つて來る五日殯殿に於て燒香式を舉行し葬儀は尙は一ヶ月後なるべしと

●王世子東上期　王世子殿下には來る八月五日の燒香式に參列せられ同十日出發東上の事に目下內定し居るも都合にて三四日繰上げ出發さるべしと

●鮮人牧師視察團　朝鮮に於ける內地人基督教徒と朝鮮人基督教徒とは近時互に接近し日に融睦の見るべきものあり京城基督教青年會にては此の機に於て內地及朝鮮に於ける基督教徒が相握手し相親睦するの機會を作らんと欲し代表的朝鮮基督教徒の內地視察團を企て過日渡邊會長丹羽幹事の名を以て朝鮮各派の主なる牧師及青年會幹部三十餘名に對し招待狀を發したるに何れも同青年會の好意と其の美舉とに感謝し各地に於ける重なる牧師等既に招待に應じたるもの監理派、長老派及京城青年會を通じて二十餘名に及び出發迄には三十名に達する見込なり一行は來る二十八日朝當地出發大阪奈良を歷訪して直ちに東京に至り日光に遊び歸途京都神戶等の信徒を訪ね八月十二日歸着の豫定內地に於ける新報各派諸教會に於ては此の報を得て大に喜び神戶大阪京都東京等に於ては各派連合の大歡迎等夫れ〳〵準備せられつゝありと云へば定めて一行に滿足を與へ今後一層兩基督教徒の間に密接なる關係を結ぶに至るべきは期して待つべき所なり尙ほ丹羽幹事及二名の理事は一行に加はり万事斡旋の勞を取る筈なり今日迄で確定せる一行の教派及其の氏名左の如し

△美以教會派　張樂鎭、孫承鏞、崔炳憲、申興雨、李環直、玄楯、全德基、玄錫七、李枝憲

△長老教會派　金昌健、梁甸伯、朱孔三、李元敏、金千一、韓錫晋

△青年會　金麟、李商在、崔相浩、金一善、李源說

●穀稅撤廢陳情　仁川商議會頭奥田貞次郎氏當商業會議所山口書記長の二氏は二十四日寺內總督及び荒井度支部次官を訪問し朝鮮穀物移出稅撤廢に關し陳情する所あり尙總督上京陳情を重ぬる筈なりと

●元山港貿易額　元山港六月中に於ける輸移出入貿易額總額三十三萬六千圓なるが內輸移入額二十萬七千圓にして輸移出額十二萬九千圓なりしと

●分隊長署長會議　京畿道管內に於ける憲兵分隊長、警察署長等は廿四日より京畿道廳にて會議を開きたるが多分廿五日にて終了すべく會議は別に重要なる問題なく單に過日の警察部長會議の諸問事項等を夫々訓示する次第なりと云ふ

●仁川商議役員會　仁川商業會議所にては二十二日午后二時より役員會開催穀物協會より提出の穀物買賣受渡法改定の件、朝鮮北滿の命令航路補助金存續の儀を總督府經由遞信大臣に請願の件、役員の擔當事務を商工業理財の四部に分ち各事項に就て發展策考究の件及び會議所更正の件等を議し一次回總督に提出決定する事となし六時散會せり

●各地水害續報　平安南道平壤新安州間は二十二日午後三時四十分の北行列車より開通し本日より二回往復す又新安州嶺美間は尙二週間不通の見込に付此の間旅客は徒行せしめ新義州嶺美間毎日二回往復し連絡する筈△安州は今朝十時全く減水せり（二十三日平安南道廳報）△全羅北道大場村より全州に至る沿道水田は萬頃川岩峙兩農場其の大半を占め浸水面積約二千町步に上りしとのことなるも被害は二三百町步を超へざるものと認む被害地外の稻作は生育良好なりと而して未だ苗代の殘存せるもの若干ありしため一部の地方は好都合なり之を有せざる地方は揷分を勵行回復を計りつゝあり（全北道廳二十三報）△今より安東縣の淸江盡間だけ開始す（平北道廳報）

群山通信（七月十九日）

▲此治水問題なるものは只獨り當地方のみに止まらず朝鮮一般年々雨量增加の傾向ありとのこと事實とすれば朝鮮の如き農業により經濟を維持する國にありては治水問題は產業政策上一日も忽諸に附すべからざる治國安民の第一要義に有之候事と存候

▲之れを要するに今回の水害が稻作に及ぼせる影響如何言ひ換へて之れを云へば水害を被りし本年の米作は豐か凶か今日の處出水未だ全く減退せざるを以て尙數日を經ざれば被害程度の見込一寸付兼るも當地黑人筋の見込は出水地方の被害は先づ四割位のものならんと申居候

▲夫れ如斯出水地方の稻田は激甚なる災害を被り一見當地方の米作に多大の影響を及ぼせし觀あり今秋の收穫如何あらんかと之を悲觀するもの有之候得共之を當地の老農に聞くに本年の出水は浸水地方の稻田に災害を與へしや言を俟ずと雖も其水害地は當地方の一部分に止まり加之之れを去年の出水に比すれば其量少きが如く現に全州街道の如き本年の水量は去年に比し六寸以上下位にありと云ふことなれは本年も亦去年と同樣一方に罹災の稻田あれば一方に下田の完全に植付を了せし地方ありて彼此相補足し結局今後の天候さへ順調ならんか今秋の收穫は去年と同樣豐作疑なかるべしとの意見にて目出度儀に有之候、因に通常の水以て出來るを上田と申し非常に雨量潤澤なるにあらざれば植付出來ざるを下田と申候

▲今回の雨は其期間頗る永く且つ當港附近一帶出水の爲め地方より米穀運搬の途梗塞せられ米の供給全く杜絕したれば去る十四日頃には當地在米僅に數十石に減少し（貯藏の籾はあれども水の爲め籾摺出來ざる爲め）尙降雨續かんか忽ち兵糧攻に遇ふ筈にて人情恟々物議騷然たりしも翌日に至り幸に雨止み無事なるを得しも一時大に當港人士の肝膽をして寒からしめ申候今後とても斯る場合なしとも限らざれば當港人士たるものは豫め應急の準備を講じ置くことは最も肝要の事に候（寒匣生）

●百三十銀行招宴　當地百三十銀行總支店にては總支店長交迭披露として二十二日午後七時より當地實業家百六十余名を花月樓に招待し盛宴を張り菅原前支店長は別辭に次で新支店長佐野直喜氏を來賓に紹介し佐野支店長の挨拶終つて河井營業部長の挨拶あり古城民長來賓を代表して謝辭を述べ各々十二分の歡を盡し十一時頃散會せり

●齋藤大佐の入京　北滿州及間島方面視察中なりし陸軍大佐齋藤季次郎氏は廿二日入京目下滯京中なり

●菅原氏の出發　今回安田家東京本店へ榮轉したる元百三十銀行支配人菅原大太郎氏は廿四日午前九時南大門發東上の途に就きたるが停車場には各銀行會社の重役新聞記者通信員其他有力者等多數の見送りありたり

●芳賀博士來京　來る二十六日より當地日の出小學校に開會すべき內地人小學校教員夏季講習會國語科講師東京帝國大學教授芳賀博士は二十五日夜南大門驛着入京すべしと

●加能越鄉友會　加越能鄉友會にては太刀山、黑瀨川、寒玉子、太刀の音等富山縣出身力士の爲めに廿二日午後六時半より掬翠樓に於て歡迎會を開き中村彥、松村竹雄、島田志良、不破重業、中野有光、佐々木唯一等の諸氏四十余名の出席非常の盛會なりき

●三新聞社の義捐金募集　平安南道平壤新聞鎭南浦新報及平壤日報の三新聞社の發起にて管內水害罹災民救助の爲めに平安南道管內一圓を區域とし義捐金募集方其の筋に認可申請し來れるを以て道長官及警務部長協議の上近々認可さるべしと云ふ

●光州監獄の破損　過般の强雨のため目下建築中なる光州監獄工●に大損害を與へ其殆んど半分以上の建築物は損壞したる由なるが右は全く受負者の損害に歸すべしと云ふ

爲人私人

▲大藏常三郎（揚州憲兵分隊長大尉）十三日浦尾旅館へ

▲井上光成（開城憲兵分隊長大尉）十三日山本旅館へ

▲細樣高作（陸軍一等藥劑官）同 [illegible]

▲增田秀碩（陸軍二等軍醫）同 [illegible]

▲成田清澄（江景農銀支店長）一日浦尾旅館へ

▲奥鍵藏（大藏省技師）同京城ホテル [illegible]

▲河井松之助（百三十銀行營業主任）二十三日釜山行

▲中村俊藏（辯護士）同平壤行

▲ターナー（機關技師）同安東縣 [illegible]

▲京城手形交換高▼

七月二十四日　金高　一四六、七九二、四三〇　[illegible]

▲治外法權▼

本年上半期の朝鮮出入貿易が昨年上半期のソレに比して二割、移入に於て五割の增加を示したと云ふので總督府一般が頗る其經濟を樂觀するに至り、總督の口中にさへ特に其事が述べらるゝに至た、併し記者を以てすれば前記の數字は一面樂觀の材料の如きも他面には大々的悲觀の材料となるのだ、其由は下に記すが如し▲移出に於ての增加、ナル程貿易共に現れた金額の數字によれば本當の事だ、併し右增加や決して移出物品數量の增加より來たのではなくして、單に米大豆等出品の市價の騰貴より來たのだ▲翻つて移入額五割の增加の方を見ると之は正眞正銘通貨の膨脹より來るであつて、折角半島へ撒かれたカイ、ダイヂの資金を持去つて仕舞ふ [illegible] ▲思ふに半島移出入貿易の現況は決して樂觀すべきものではない、何よりは事實に於て移出すべき物品の產額昨も今も殆んど相變らずで、通貨膨脹より來る移入超過のみ獨り旺盛なるからである▲總督府が鳥居龍藏氏に半島の人類學的研究を囑託したのは [illegible] な事だ、トコロで記者は過日鳥居氏の史以前に於ける研究の方法如何と云ふ講演を聽いたが、追ば斯道の大家中々手に入つたものだ、思ふに鳥居氏の研究にして進まんか、半島有史以前 [illegible] 學乃ち文獻の徵すべきなしと捨てられた事も自然と明かにならう▲先日曜を利用し、記者は漢陽公園 [illegible] の別莊を試み、途すがら進辰馬の別莊 [illegible] 下居」と、門前に碑あり、曰く「大人下居」と、主人に芝居氣ある以て [illegible] しだ▲オンドル內に入れば、過般の問題に關し、鎭をケヅツタ敵 [illegible] 人々が淸風を浴びながら鳥 [illegible] つゝあつた、ア [illegible] 出ても [illegible] ひ、入つては淸遊を共にす、眞に君子人の事。

京城藝妓の半生　松葉亭の時松（四）

聞からた話し致しまする通り逃走だの誘拐だのを防ぐと云ふてとを主眼にしての取扱ひですから体の善い拘禁者でセントルイスへ着く直く馬車に乘せられて立派な宿屋へつく事かと思へば何んの貴郎、其處等近所の家に比べると恰度裏長屋か豚小屋の如、仕切りの安下宿に運び込まれましたの、ソリヤ貴郎京城の西洋館なるものに比べれば立派ですけど何分傍がメヽ抜けて居るんですからね、私共は一同の量見では大ひに其の高襟式に食べ物でも一切萬事西洋式でナイフとホークと匙より外は掴まないつもりかなんかで居た處が何が貴郎、當て事と何とかとは善く云つたもの、皆さん御飯と云ふから大急ぎでスツカリ西洋人になつた心算で食堂へ入つて見るとテーフルに白い布が掛つて、其の上にヅラリ會席膳が列んでる飯櫃が所々に置いてある始末でしよう一寸其の格好が何んの事はない氣の利いた飯屋つてね處ですね、一同内心アツと驚きましたね、人をツケ箆棒な米の飯に澤庵の丶香物で生命を繫くのなられ互に何にも米國下だりまでヨチ〳〵出掛けて來るもんけね馬鹿にしてやがる、とは一同の胸ですよ併し食はなきや腹が減るでしよう、エ、不景氣だつて？エ、エ不景氣ですともね、然るにマダ不景氣の頂上があるんだから驚いて下さいよ、一同設けの椅子に着いて杓子に手を掛けると又ビツクリ、ホクロク神の頭の如に、イヤに細長い南京米のボロ〳〵した糠臭い奴なんで、[illegible]不[illegible]……[illegible]も玉葱に牛肉の煮てろかしに盛るんの手の甲の如な澤庵漬が四片れ情け無いとも情け無いとも此の上なし……と思つたら〻此の上があるんですよ不景氣ですとも、最初の内は咽喉へ通らなかつたけど、夫れが終には美味いと思ふ如になりましたね、左樣なつちやア人間放れがした如な氣がしますね、情けないもんですよ、デ六月の初めから開場と云ふことに成つて日本館の開館式には公使の高平さんが見ゑて芽出度式が擧げられたのは結構だが不結構な事には此の日本館雨が降るとボタ〳〵漏らうと云つたもんですね、工事の受負人が惡いのか何うだか知りませんがね、私達の三十三人組は二タ手に分れて一方は演藝一方は喫茶店の茶汲女と云ふ風に段取りが付いて玉三郎さんや青柳の娘さんなぞは横造金閣寺の方の茶汲女、私は演藝部の方でね威勢よく開演した處は素晴らしかつたが景氣が至極の不印ですデ大蜘蛛の大薩摩かなんかで精々大きい處を出せるんですがチツカラ見物がない、觀た人は二度と來ない何う云ふ譯かと訊いて見ると『アノ唄が胃經學で惱む病人のウナリ聲にツツクりだから聞いて居て不愉快だ』は振つてるでしよう。

●都女郎の愁嘆

▽戀しい情夫は監獄　大連民政署より京都府下船井郡八木町二十九番地生れ八木多四郎（二五）は四十三年十一月頃より大連市土木請負業柳生組事柳生榮藏方へ雇れ中柳生組に於て鐵道より受取る可き工事金ある事を知り柳生の印を彫刻せしめ領收證を僞造し柳生の代人として本年四月二十五日正金銀行券にて金千五百餘圓を騙取し同月二十七日逃走せし當時遠捕照會に接したる南部署は長野岸佐藤川副の四刑事に搜査方命じわり殊に當地遊廓に情婦ある事迄巡査に照會に附記しありたるが情婦と云ふは新町遊廓春の樓娼妓都事岩田てるなる事を探知し横濱にて互に夫婦約束せしも成る事情の爲め多四郎は滿洲に至り、てる子は娼妓として當遊廓に抱へられ[illegible]を[illegible]せしより必ず[illegible]にて[illegible]口にてグランドホテルに投宿洋人相手に數十圓を費消し夫れより北京南京、上海、香港等を經て十六日當京城に來り十七日は南山に野宿し愈々死を決し奬忠壇山中にて縊死を謀りしも死に切れず爲めに剃刀を購求し咽喉を切らんと決したるが情婦てる子に一應最後の別れに面會せんと十八日新町二丁目明月より電話にて呼寄せ密會したるを長野刑事が探知し逮捕せし次第にて都も悲嘆の涙に暮れ居れりと

●斷水の損害賠償

▽檜垣道長官の英斷　京畿道廳にては過般の水道斷水に依りて職業休止又は甚だしき打擊を受けたる例令ば湯屋の如き洗濯屋の如きが蒙りたる損害に對し賠償の責に任ずべしとて既に夫れ〳〵調査完了したりと云へば近く其の發表を見るべしと云ふ、流石に氣の利きたる處置と云ふべし

●今度來て見ろ

▽仁川藝妓征伐軍の凱旋　さても其後さる程に數々の失敗に追々の蹄にて命辛々柳原停車場迄引き揚げ冷汗を乾かし乍ら山石さんが態て此所に來るべきを想像して四時二十一分迄待つた甲斐あり空店のエビス然として鮮立つた三人溜息ツクヅク身の不仕合せを物語つて「之れも皆んな貴郎が惡いんだから晩飯だけ落ち着いて下さいよコツチリとサ」と泣き附かれて見ると夫れも尤なり然らばコウれおやと前に立つて繰込んだのが仁川入景園は稲田ホテル小鈴手を叩いて女中を呼んで曰く『晝飯を一時半過ぎに食べた斗りですからね成る丈け美味しい物を澤山に……夫から酒をド〳〵ね、夫れから醉つて置きますが、勘定は此方（旦那が破成のだから心配なく」人の懐中なんで馬鹿にした氣前を見せて居る所へ此の山石さんの親友で京城若草町に住む鑛山師の山内さんが至急山石さんに相談の必要あり下仁の上居所を突き止めて乘り込んで見ると前記の始末男一人に女三人餘つてる女が二人あり今一人足らぬのは北島とか○島とか云ふ仁川の法律家を電話で呼び出し餘つるて春枝を押附けんとしたる處○島さん此の位の女なら仁川にも餘つて居るとでも思つたのか體善く逃げて歸られたので春枝愈々其の不過を嘆じ隣座敷の物音を氣にしながら獨寐の淋しさをツク〴〵味はつて居るのを見兼ねて山石さんが不正なる鬪體を寄せか〻つたのを小鈴が嗅づいて角を生すの滑稽を演じつ〻ある間に夜が明ければ二十一日ホテルで小鈴の好きな朝飯をウンと食つて午前八時の急行で五人共に生命にか〻はる程の事にも出會さず芽出度歸京に及んだが小鈴、吉彌、春枝の三人口を揃へて曰く「ヘマを見て仁川の藝妓衆を苛める機會が無つたのが殘念だワ」と口惜しがつて居るのを聞いた仁川藝妓曰く「今度來て見ろ」

●新聞紙規則違反

岐阜縣人當時明治町一丁目吉田松太郎氏は滿韓日報京城支局長として支局經營中なるが曩きに滿韓日報創立五週年記念號を發行せしに本社が發行せしにあらずして支局に於て隨意に印刷發行せし事其筋の探知する處となり告發され檢事局に送られ新聞紙規則違反として起訴せられ來る八月三日京城區裁判所に於て喜頭判事の係りにて野田檢事立會の下に公判開廷せらる可しと

●旅館客引捕はる

仁川濱町一丁目旅館筑前屋白石米吉方客引大分縣西國郡埋村生れ藤永杉松（二三）は昨二十四日午前七時頃仁川入港の君ヶ代丸及信濃川丸より上陸の客に對し宿泊誘引の現狀を警官に認められ辛くも逃走して堀商會の裏門に逃込みたる處を中島高木の兩巡査が門の前後より入來り取押へ告發したり

●冷評した上亂暴

島根縣人當時曙町白十四番戸車夫山崎備平（三九）大分縣人當時曙町戸澤某（三二）の二名は二十二日午後九時半頃新町大和新地福島亭に至り馴染の敵妓に向ひ素見し居りたるを樓主が營業妨害とて退去を促したるに亂暴して硝子戸を破りしより南部署に引致され目下取調中

●鮮人の自殺未遂

西部管內康近元（十九）は精神に異狀を生じ自殺を謀り死に至らずして救助せられ總督府醫院に入院せりと

●遺失　仁川仲町三丁目光武又右衛門は一昨日銘仙夏羽織及モス兵兒帶を宮町新町通りにて遺失屆出づ

●盗難　住所不定讃野千外司（二三）は本町二丁目河島時計店外一ヶ所に於て金品を竊取し[illegible]に捕らる

●演藝だより

●壽座　二十五日木村猛夫一行の代り狂言は「吉丁字」全九場なりと云ふ

●龍山座　二十三日を以て開催せる大阪活動大寫眞は大喝采を博せり二十五日分映畫左の如し
櫻井驛、西南の戰、肖像畫の街、巴里の貴公子、新馬鹿大將、二人兵頓智賊、巴里女優の提灯踊、不思議テーブル、伊太利ゼノアノ驛景、嬉野ギヤス、セパスト山の噴火、中入淨瑠璃阿波十郎兵衛

●浪花館　連夜浪花光廣一行の浪花節

●大相撲二日目

外れるべき筈の天氣豫報マンマと首尾よく外れて二日目は朝鮮晴れの好天氣に加ふるに日曜と云ふのでナカ〳〵の好況なりし

勝	負	勝	負
有馬嶽	大貫	矢車	鬼ヶ崎
放岩	小雷	羽黒山	若杉
天王山	萬金	國見崎	青葉嶽
利根川	鹿の山	國響	常陸川
達錦（分）	小放	若駒	一陣
輪飾	有馬嶽	勝田嶽	國見崎

▲中入後

勝	負	勝	負
小野崎（うはて）	御所車	敷島（たて）	玉の川
能登嶽（だし）	大崎	金の花（よなし）	加勝山
大蛇潟（よりし）	平の石	寒玉子（すくひ）	鐵甲
上ヶ汐（よりし）	太刀音	鳳（預り）	十州山
伊勢濱（だし）	鏡川	黒瀬川（よりし）	陣立
國見山（はたき）	平の石	太刀山（かつ）	五十嵐

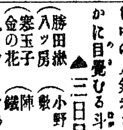
有明代

右の內鳳、土州山の兩力士は孰れも一行中の人氣者とて角力振り極めて華やかに目覺むる斗りに面白かりし

▲三日目取組

勝田嶽	小野崎	加勝山	玉の川
入ツ房	敷島	大崎	太刀音
寒玉子	陣立	平の石	有明
金の花	鐵甲	鏡川	大蛇潟
上ヶ汐	伊勢濱	土州山	太刀山
黒瀬川	五十嵐	國見山	鳳

京城日報好み番外　寒玉子　平の石



▲本日は仁川の噂申上候仁川敷島樓の一朝日樓の年子は職業力を失ひ船渠に入り居たるが漸く修繕も終り豫定の任務に就き申候▲同樓の力彌の病氣は中々全快し相もないとの事に御座候▲同樓の菊月は親元から送金が有つたので早く年期が明けると喜び居るとかに候▲同樓の薄雲は昨年京城に居る時角方取り紫雲館に夢中に成たとか又もや昨今角力が來ると云ふので其の寐言斗り言ひ居る由に候▲同樓の彌生は○會社の○○さんの精力主義には實に閉口だとこぼし居候▲小高事木原こと及金助事濟水いしは金榮樓より現れ申候

●金華園から觀た記

金華園は西大門外にあり酒見某の經營にかゝる、と[illegible]へば夫れまでだが京城にも此の[illegible]なるのが殆ねたから是れでは親切なるものでないから道筋から紹介する御馴染さんは先づ西大門を出てゝゆうしにして右に金華山金華園の標抗を見るべし南大門若しは西小門方面よりすれば西大門通車停場前飲料水ざ銘打ちたる井戸ある横町を眞直ぐ……と申しても朝鮮の町なり少々はウチヲクチヲイ居る事勿論なれの、進を行くとまで書いたら大抵れ腑に落ち入つたるべし、人家を放れて所謂金華山に上る、道崎嶇、羊膓してと來ると大層ながら夫れ程ではなし左り作ら少々足場の惡いけ難なれど五歳以上の坊ちやん嬢ちやんならア、辛度位で濟むべし、坂路の左に利鎌もて薙き拂ひ刈り除きても飽き去枝を張り根を蔓らす雜草の茂り蔓るが如茂りに茂るものは和名秋櫻（コスモス）何千本、何萬本數も知らず、蛙に倚り岩に縋る、天清く氣澄む仲秋の候の其の美觀を想ひつゝダグニース、ダリア、クリサンスマンスなどの咲き亂れるを美くしと見つゝ行けば蛙を拓き巖を斫りて開らへたる花壇に菊の幾千種、盆栽の樹稚く土古りされはさしたる逸品を見ざるも萬年青に珍品あり白色にして本に緣を含む園主、千兩ならではと號して呵々として笑ふ、噴水あり水源は巖石の間より湧出せる清水に取る朝顏あり三千鉢、紅、紫の研を競ふ來月初旬を出でざるべし亭あり朝顏を以て端とし家根とすべく計畫せらる、茲に立ちて天風に嘯けば南山眉間に聒き京城の天地悉く吾が膝下に朝するが如きものあり、衣袂を不斷の凉風に拂はせて茗を啜ろ三千世界は樂の世界との感が起る、若し三千餘鉢の朝顏、其の六分の一の五百鉢が紅紫の玉を綴る時んば實に此所に小入谷の景趣に加へて眺望の雄なる丈はた景物なり京城にた住居の諸君は少々朝夙く起きになつて御散歩がてら朝顏の見物と出掛けらるべし況んや眼下殆んど六尺の邊には彼の西大門外蓮池あるあり況んや更らに百歩の勞を客まず金華山頂に立てば漢江揩願の間にあり日盛りにして扇を忘るゝ程なり、園主曰く、本年は薔薇して薔薇を培らうと思ひます特約先は兵庫川邊郡長尾村の內山本村の薔薇園です直接內地からよれ上年になるよりは安く差し上げることが出來ると思ひます云々（△生）

●天氣豫報（自廿四日午後六時至廿五日午後六時）
南西の風曇少雨後晴

第六十八期貸借對照表

負債之部	
官公金預金	二〇一、七一八・五〇八
諸預金	六、九四一、一二三・八一六
借入金	五〇、〇〇〇・〇〇〇
再割引手形	二八五、六六〇・〇〇〇
他店より借（九百六十一ヶ所）	六六三、七五六・一六〇
資本金	三、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
諸積立金	六四〇、〇〇〇・〇〇〇
滯貸準備金	二〇〇、〇〇〇・〇〇〇
本支店間未達勘定	一〇八、六五一・四三〇
前期繰越金	三三五、四九〇・二〇八
當期純益金	一一八、六九二・〇三八
合計	一二、三六五、二七三・一五六

資產之部	
諸貸出金	四、三七四、八九七・八六〇
割引及荷爲替手形	三、七四七、三八七・五一〇
預ヶ金	三三〇、五九〇・七三〇
鮮銀勘定	一、六七八・三七〇
地金銀	六八八・八一〇
有價證券	一、二九二、七九七・六〇〇
他店へ貸（六百三十二ヶ所）	五三七、四六〇・三六〇
拂込未濟資本金	八七五、〇〇〇・〇〇〇
地所建物	四五九、一八四・一四七
新築費	三八六、五二〇・二〇七
金銀有高	七四一、七二二・五六九
合計	一二、三六五、二七三・一五六

利益勘定	
當期純益金	一一八、六九二・〇三八
前期繰越金	三三五、四九〇・二〇八
合計	四五四、一八二・二四六
內	
積立金	二〇、〇〇〇・〇〇〇
賞與金	一一、八八六・〇〇〇
配當金（年八分）	八五、〇〇〇・〇〇〇
後期繰越金	三三七、四七七・四三〇

右之通候也
長崎市築町百七番戸第一號
株式會社十八銀行
頭取　松田庄三郎
副頭取　永見寛二
取締役　高見和平
取締役兼支配人　松田英三
取締役　高橋守太郎
支配人　野口孝太郎
京城支店支配人　足立瀧二郎
監査役　肥塚與八郎
同　松田精一
同　中村嘉平太
前記の各項調査を遂げ其正確なるを保證候也

諸公債諸株券
●現物賣買
迅速確實に御取扱可申候
兼業
京城本町三丁目
大阪野村商店代理店 田中友吉商店

●金指輪の新提供
本品は異性十四金の美術彫刻製にして又寶石は輓近化學界の新發明品なれば其光輝の燦爛たる一見毫も純粹ダイヤモンドと異ならず紳士貴婦人各位は肚交上に缺く可からざる逸品なり御注文は端書に御一報次第直ちに代金引換小包便にて發送仕候
●金性保證刻印附
●高尚優美函入
金三圓也
但郵券代用一割増送料廿五錢前金は特に發送料無料
東京市本所區松井町三の八電車大通り
内外時計寶石貴金屬商 石橋時計店
振替東京八三二九番

最上醤油
山十
千葉縣銚子町
醸造元 岩崎重次郎
京城本町壹丁目
發賣元 三巴商會
電話七五三番

三輪井上兩博士方劑
懷中良薬 消化と毒けし
仁丹 THE JINTAN
●日中外出の時 ●精神疲勞の時 ●旅行散歩の時 ●納涼水泳の節 ●酒煙草の前後
仁丹のめば
▼精神を爽快にし ▼元氣を旺盛にし ▼疲勞感を去り ▼頗る清涼を感ず
何人も御服用あれ
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房
電話九〇四、一〇六八 振替口座京城十六番

瓦斯コークス販賣
京城黄金町高等演藝館隣
酒井組
電話一二四九番

村井弦齋先生命名
糠精(こうせい)
●糠精は我國の常用すべき衛生食糧なり…(…)
京城本町三丁目
龜屋商店
電話二十七番
振替二十七番

特撰清酒
長春
攝津灘 大塚釀造場吟釀
大樽半樽瓶詰共新荷着仕候間御用命之程奉願上候
今當回 醤油着荷仕候間是又御用之程奉願上候
清酒 金露 長春 發賣元
大塚京城支店
京城明治町一丁目
電話四〇一番

見よ
世の中に
痩せた人 衰弱の方 産後の婦人 病後の補血は試に次亞燐を召されよ
次亞燐服用の力で體量は參百七拾磅を示せり
藥價 大瓶壹圓五拾錢 中瓶九拾錢 小瓶五拾錢
◎賣捌は各藥店にあり

名譽金牌受領
キリンビール

大學目藥
●かれこれと迷ふこと勿れ完全無缺の大學目藥あり
大學目藥は帝國醫科大學病院の處方に基きし貴重の製劑にして●流行目●トラホーム●爛目●のぼせ目●かすみ目●血目●疲目其他眼病一切に可驚奇効あり

かぜねつの最良藥
大阪田口のヘブリン丸
ハカリ印
發行所元 ヘブリン丸本舗 大阪市北濵一丁目 參天堂藥房
代理店 京城南大門通三丁目 新井藥房
電話九百四十六番 振替口座京城十八番

IVORY SOAP
アイボリー石鹸
Procter & Gamble, Cincinnati
舶來 アイボリー石鹸
◎御注意
「アイボリー石鹸を下さい」といふて來る客に「へい」と差出す偽物あり御要心〳〵
包紙に斜に「アイボリー石鹸」の日本文字あるものは眞正の舶來アイボリー石鹸なり

清正醸造 政宗 正則元
上酒 小賣壹升に付二十錢
卸賣は特別割引可仕候
京城壽町三丁目
清酒 味淋 焼酎 醸造元 並に日用食料品雜貨類
中井酒造場販賣部
電話百七十七番
電話にて御注文の際は一升以上は店員をして速達致さすべく候
七月八日より八月七日まで五十錢毎に食料雜貨商組合景品券を呈す

中元御進物品
◎エジプト、トルコ巻煙草
◎葉巻煙草、刻煙草
◎金口煙草、パイプ煙草入
◎其他各種香水化粧品類
右各種荷捌に付精々勉强可仕候間多少に不拘御用命願上候
京城本町二丁目
日希商會
電話二二二番
G.J.C.

今回諸事改良をなし最も便利に取扱申候
仁川 静養所 八景園
(電話五五二番)

一切の病に特効藥
健胃固腸丸
主治 ●赤痢病●コレラ病●腸胃加答兒等に用ひて實効速なり
●常に時へ置き朝夕五粒づゝ服用せば腸胃の衰弱を治し食物の消化を能くす
藥價 貳十粒入 五錢 四十五粒入 拾錢 百粒入 貳十錢 三百粒入 五十錢 七百粒入 壹圓
本劑ハ全國到る所の賣藥店ニ取次販賣せり
御求めの節は商標と谷回春堂の名に御注意を乞ふ
大阪市東區伏見町堺筋角 本舗 谷回春堂
(電話東四五八番)(振替貯金口座一八三〇)
代理店 京城南大門通 新井藥房
電話一〇六八番 九〇四番 振替口座京城十六番

◎貸金
有給者には極秘密に低利融通可申候
旭町二ノ一五別府組裏 帳場筋向小路 高橋
取次は各藥店にあり

今日=此時
何人にもヘルプが必要
●悪疫は常に腸胃患者を狙ふ
●腸胃の弱き人は勿論、何人も、昨今の季節には、朝夕二錠宛のヘルプを用ひよ=腸胃を健全にし惡疫を防止す
腸胃新藥 ヘルプ HELP
窒扶斯赤痢虎列剌等の流行は皆腸胃の養生を怠に起因す
(ヘルプ主効)
●痢病●腸加答兒●時候あたり●吐瀉●コレラ●水あたり●寢冷食傷等一切の下痢を止め腸胃を整へ腹痛を治す

M.C.C.
土耳古 埃及 寶
エムシーシー
專賣局の定價は百本に付金五圓貳拾錢なるも朝鮮内は大安賣
京城、平壤龜屋―釜山、木浦、群山高瀬支店

文房具 和洋紙 測量器械
日本政府檢定済 度量衡器特許輸入販賣所
シノサキ本店
京城本町一丁目(郵便局前)
電話七百五番 長六四八番 振替口座朝鮮一五四番

資本金五百萬圓
東京建物株式會社派出所
本店東京市日本橋區呉服町
一土地建物抵當貸附
一月賦償却建物建築
京城旭町二丁目
電話一六八一番

資本金五百萬圓
神戸海上運送火災保険株式會社
出張所 京城明治町一丁目
(電話一五四九)

義歯術全般
京城南山町二丁目(伊藤組前に入る)
小倉三郎
電話

龍山櫻町百十一番戸
整骨專門治療院
毎日午後二時より五時迄出張
但し先代よりの家傳と當時の治術とを折衷し如何様の折骨脱臼も之を治療せしむ
主任醫 村田泉一
先代の門弟 助手 中野伊之七

名殿 先鳳
釀造元
仁川宮町三丁目
深見勝三郎
電話二四八番
電信略號 フ

中埜本家
尾州半田
三 清酢
特約販賣 仁川京城 高雄支店

味噌は白と赤との二色で味好よく天下一品
特製 寶味噌
御料理向
味噌製造 漬物問屋 仁川本町三丁目 たからや
電話七三七番

本場精撰
茶
右銘茶各種新物續々入荷に付御小賣とも大勉强仕候間多少に不拘御用命願上候
仁川本町四丁目(廣場通)
田中芳春園
電話四五〇番 振替京城五〇二番

茲齊流割烹
すゞ祢
南山町一丁目
電話五百二番

定期出帆
芙江公州間
芙江發毎日午後一時四十分公州着後六時
公州發毎日午前七時芙江着後四時半
御客様の便乘用として新聞雜誌寄附候
京釜芙江驛前 中條運送芙江支店

キ
汽船出帆廣告
七月中
三宅丸 天草丸 成歡丸 博利丸 成歡丸
仁川 本町
鎭南浦行 濟州行 群山行 木浦行 法聖浦行
七月廿六日 七月廿六日 七月廿八日
合資會社 秋田商會船舶部
電話一七三番七五〇